都道府県名	徳島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	阿南市立新野東小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	１	０	６	１２
児童数	１２	１４	７	１８	１０	１４	０	７５	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

未来に生きる確かな学力の育成

―　目を輝かせ，一人一人が楽しく学ぶことができる学習方法の改善　―

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

１・２年生　体育

体を使って楽しく学習することで学習意欲を高め，公正な態度や協調性を育て，基本的な行動様式を身につけることで「生きる力」の素地をつくる。

２年生　生活

活動中心の授業において，個人のめあてや個人差に対応できるようにする。

３・４年生　体育

体を使って友だちとともに楽しく学習しながら，基礎体力をつけ，柔軟な発想力や集中力，表現力，コミニュケーション能力を養う。また，基本的な健康に関する知識を身につけ，実践力を養う。

４年生　国語　算数　社会

国語は学力の原点であり，正しく理解することで幅広く他教科への波及・転移を促すため，より専門性の高い教科担任制で学習を行う。

算数・社会においても子どもの理解度に差が出やすい学年であり，教師の専門性を生かした教科担任制で授業を実施し，授業の工夫改善，つまずきの克服に努める。

５年生　算数

積み上げが不十分な子どもには，はっきりとつまずきが学習の結果に表れる学年である。ＴＴにより，きめ細やかで基礎基本を身につける徹底した学習を行い，一人ひとりのつまずきの克服を図る。

６年生　国語　社会　算数

小学校最後の学年として，学習に対する構え，生活の中での学習習慣学習内容の理解，学び方等をしっかりと身につけさせ，総まとめをする。

中学校への準備段階として，学校間の連絡調整を行い積極的に連携を深める。

(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○テーマ 目を輝かせ，一人一人が楽しく学ぶことができる学習方法の改善 ○仮説 子どもたち一人一人をしっかり見つめ，教師の創意工夫を生かした学習活動を展開することにより，子どもたちの学習に対する興味や関心を高め，基礎基本の定着，学力の向上が図れるのではないか。 ○研究内容・方法 【内　容】 ① 個に応じた指導（ＴＴ指導を含む）

平成14年度	② 教科担任制の導入 ③ 発展的・補充的な学習の教材開発 ④ 基礎的基本的内容の定着 【児童理解への取り組み】 ・学力診断テストの実施。 ・国語・算数・体育において個人カルテを作成。 ・国語・算数に対する意識調査を行う。（毎学期末） ・国語・算数において「よく分かる授業内容・方法」とはどんなものかを質問。（毎学期末） 【学習方法の工夫・改善】 ・フロンティア事業についての組織つくりと校内研修計画の立案。 ・授業開始前活動（朝の活動時）に「フロンティアの時間」を設定。 （国語・算数を中心に学習プリント，問題の作成・解答等に児童主体で取り組む活動。） ・ＴＴ指導 （ＴＴ指導法についての研修，及び，T_1・T_2 の打ち合わせ時間の確保。） ・教科担任制 （各教師の専門性の発揮，及び，教材研究の時間確保） ・発展的・補充的な学習の教材開発 （学年枠をはずした指導体制や，教材・教具の授受。放課後の時間の活用。） ・基礎的基本的内容の定着 （常に評価を心掛け，一人一人を見つめた指導の徹底。ドリル，ワークブック，手製学習プリントの実施。放課後指導。）

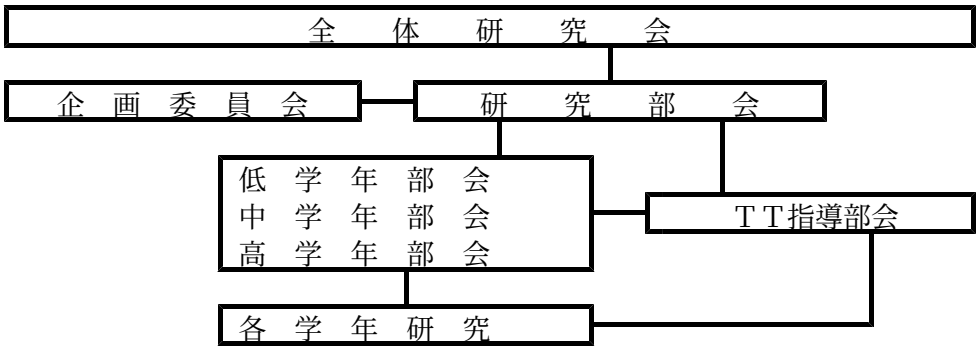
平成15年度	○テーマ 目を輝かせ，一人一人が楽しく学ぶことができる学習方法の改善 ○仮説 子どもたち一人一人をしっかり見つめ，教師の専門性や創意工夫を生かした学習活動を展開することにより，子どもたちがより学習意欲を高め，共に学び合いながら確かな学力を身に付けていくのではないか。 ○研究内容・方法 【内　容】 ① 個に応じた指導（ＴＴ指導，習熟度別・コース別学習指導を含む。） ② 教科担任制の導入 ③ 発展的・補充的な学習の教材開発 【児童理解への取り組み】 ・学力診断テストの実施。 ・国語・算数・体育において個人カルテを作成。 ・子どもを細やかに観察し一人ひとりを見つめた指導の徹底 ・国語・算数に対する意識調査を行う。 【学習方法の工夫・改善】 ・フロンティア事業についての研修計画の立案。 ・朝の活動「フロンティアタイム」（週１回）の活用。 ・ＴＴ指導（学級内ＴＴ指導，学年間交流ＴＴ指導についての研修） ・教科担任制（教師の専門性の発揮，担任との連携） ・発展的・補充的な学習の教材開発 ・教材・教具の開発（各個人のつまずきに対応。具体的でよく分かる学習） ・かがやきタイム（週１時間　時間割に位置づけ，放課後の時間を活用。） ・個別指導（一人ひとりにあった学習プリントの実施。放課後指導。）

平成16年度	○テーマ 目を輝かせ，一人一人が楽しく学ぶことができる学習方法の改善 ○仮説 子どもたち一人一人をしっかり見つめ，教師の創意工夫を生かした学習活動を展開することにより，子どもたちの学習に対する興味や関心を高め，基礎基本の定着，学力の向上が図れるのではないか。 ○研究内容・方法 【内　容】 ① 個に応じた指導（ＴＴ指導･習熟度別指導を含む） ② 教科担任制の導入

平成16年度	③ 発展的・補充的な学習の教材開発 【児童理解への取り組み】 ・学力診断テストの実施。 ・国語・算数・体育において個人カルテを作成。 ・子どもを細やかに観察し，一人ひとりを見つめた指導の徹底 ・国語・算数に対する意識調査を行う。 【学習方法の工夫・改善】 ・フロンティア事業についての研修計画の立案。 ・朝の活動「フロンティアタイム」（週１回）の活用。 ・ＴＴ指導（学級内ＴＴ指導，学年間交流ＴＴ指導についての研修。） ・教科担任制（教師の専門性の発揮，担任との連携） ・発展的・補充的な学習の教材開発 ・教材・教具の開発（各個人のつまずきに対応。具体的でよく分かる学習） ・かがやきタイム（週１時間　時間割に位置づけ，放課後の時間を活用。） ・個別指導（一人ひとりにあった学習プリント等の実施。放課後指導。） ・家庭学習の習慣化と合理化

(3)　研究推進体制

（研究組織図）



（委員会メンバー）

・企画委員会・・・校長，教頭，研修主任，フロンティアＴ，教科担任

・研究部会・・・・・研修主任，フロンティアＴ

・ＴＴ指導部会・・・ＴＴ担当教諭

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・　本年度より教科担任制を実施した結果，教師はより多くの子どもと日常的に関わり，担任以外の教師からも，配慮の必要な事柄について共通理解が深まった。子どもも，いろいろな先生の指導を受けることで，それぞれのよさを享受できたと考える。
　教科担任制については，初めてのことであり，模索の連続であったが，実践を進める中で，担当教師がそれぞれに課題を見いだすことができてきた。学力テストの結果から一人ひとりの子どもの学力の傾向も分析でき，それに対応する学習指導を心がけていくようになった。

・　児童の意識調査から，算数においては，「算数が好きか。」の問いに対し，「とても好き」及び「好き」の人数が，２学期から３学期にかけて４年生は１３％，増加し，６年生では横ばいであった。

・　算数のアンケートの記述による回答数が全体で約２０％増加した。

２．今後の課題

・　小規模校における教科担任制については，子ども側からの是非，学力の伸びからの考察，教員数の確保，教師の専門性や得意教科を生かした学年の配置，時間割，フロンティアティチャーの持ち時間数など多くの課題を残している。

・　授業がよく分かるようになったという子どもと，その教科が苦手で意欲が高まりにくい子や努力がなかなか結果に結びつかない子がいるのも事実である。
　これからも，できる限り一人ひとりにあった方法で確かな基礎学力と生きてはたらく力を身に付けさせていくことができるよう取り組んでいきたい。
・　作業活動が主な単元とそうでない単元とにおいて，同じ教科でも子どもの興味関心に差があり，意識調査をする時期を考慮しなければならない。
・　特に高学年の指導においては，中学校との連携が必要となる。今後，定期的継続的に時間を設け，情報交換や授業の様子を参観し合ったり，さらに進んだ段階では，中学校との交換授業などについても視野に置いて深めていきたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

・定期的な学力調査の実施
・定期的な教科・内容に対する意識調査の実施
・家庭との情報交換・連携
・個人カルテの作成
・研究授業と授業研究会の実施
・教科担任と学級担任との連絡調整
・テストやプリントのファイリングにより，学級担任も教科担任の教科の成績確認

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・　校内研修での授業も公開したり，教育課程などの研究報告の場を通して，県南ブロックの小学校，中学校へ成果を発信していくことができた。
・　今年度は，中学校の研究授業参観や情報交換を通して，連携の必要性を感じた。フロンティアスクール同士の交流も深めていきたい。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　■６学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　■一部教科担任制　□その他

【研究教科】　■国語　□社会　■算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　■体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無